

運動会の弁当 楽しい思い出

那須末治74元会社員

(合志市)

放送中のNHKの朝ドラ

ラ「ちむどんどん」で、先日、運動会の場面がありました。小学校の徒競走で、破れた運動靴を履いた女の子が途中まで1番だったのに、靴が脱げて転んでびりになり、家族で悲しむという内容でした。

私はその場面を見て胸が高まり、自分の小学生の時の運動会を思い出しました。私たちの時代は運動会では全員はだしでした。1等賞はノート2冊、2等1冊、3等は鉛筆3本で、それがほしくて足の裏が擦りむけそうになるまで全力で走ったものでした。

でも結果は3位かそれ以下。入賞した友だちが

得意そうに賞品を抱えて自分の席に着くのをうらやましく思ったものでした。

ちなみに、妻に聞くと、運動靴は履いていたとのことでした。それでは、私の娘二人の時はどうだったのかと思い、昔のビデオテープで確認してみました。その時代、地域

によって違ふのだと思いますが、幼稚園の頃ははだしで、しかも組み体操は上半身裸で演技していました。

でも、一番の運動会の思い出は昼のお弁当でした。母が手作りの巻ぎずし、卵焼きなど、近所の人たちと分け合って和氣あいあい、おなかいっぱい食べていました。無邪気で楽しかった少年時代の思い出にひたっています。

今はコロナ禍で運動会もままならない時代だとは思いますが。マスクを外して笑顔で過ごせる日が来ることを心待ちにしています。

5/14(土) 熊日新聞「読者ひろば」より